

スカパー 東京メディアセンター 第2スタジオ、第3スタジオ



所在地：東京都江東区
 延床面積：17,579.86㎡（施設全体）
 構造・規模：鉄骨造、一部コンクリート造、
 地下1階、地上6階、塔屋1階
 設計：（株）竹中工務店
 施工：建築／（株）竹中工務店
 電気／（株）きんでん
 完成：平成20年7月

デジタル放送技術を駆使して、安定した高品質な多チャンネル放送サービスを提供する「スカパー東京メディアセンター」。スタジオの照明パトンは標準タイプにそれぞれ調光器を搭載したことにより、スピーディで効果的なスタジオ照明が実現しています。

高品質な多チャンネル放送サービスを提供する新放送センター

衛星を使った番組の中継や送信設備の開発、放送の運行などを行ってきたスカパーJSAT株式会社は、目黒メディアセンターを中心に3カ所で稼動してきた放送センターや地球局（アップリンクサイト）を1カ所に統合。大規模災害にも耐えられ、かつ安定した品質で多チャンネル放送サービスを提供できる新放送センター「スカパー東京メディアセンター」が竣工しました。施設は送信用のプラットフォーム、プレイアウト、制作設備、オフィスの4ブロックで構成されており、番組間のMCなどを収録できるスタジオ（撮影室）が1階に4室設けられています。

標準照明パトんに調光器を搭載したラインアップで、多目的スタジオとして対応

スタジオは、スカパー！の自主運営チャンネルのパーチャルスタジオとして、また通常のテレビスタジオとして使えるように水平壁も装備。スタジオ1室に対して、照明パトンはLパトン13台、バックパトン3台、アッパー・水平パトン3台、美術パトン2台などで構成しています。特に、水平壁のアーチ状の部分へ均一に光を当てるため、調光器搭載形のRパトンを製作。この調光器は調光・昇降ワンパッケージシステムの「センピディムスター」で、標準サイズ2m幅あるものをケーブル受カゴに乗せられるように短くして搭載しています。これにより、通常最高3回路、1kW用なら6回路のところを最高6回路、1kWなら12回路まで対応可能な「センピディムスター」用のRパトンとなっています。これらの照明のコントロールは、デジタル調光操作卓「バーサステーション」からDMX信号を出し、スタジオ内の可搬形調光器「ポータブルディムスター」や分散型調光器「センピディムスター」などの調光器を制御するようになっており、盤は調光装置ではなく通常の電源盤と同様に直電源を分岐しているだけで、調光操作卓から出た信号が制御信号としてスタジオ内に分散されるシステムとなっています。照明パトンの昇降は、スタジオ内に設けた昇降操作装置により行われ、同時に第2スタジオのみに設置した吊りマイクの昇降操作も可能にしています。



第2スタジオの照明設備 Lパトン13台、バックパトン3台、アッパー・水平パトン3台、美術パトン2台等を配置



階段上部よりスタジオ照明設備を望む



▲照明パトン



◀吊りマイク装置



デジタル調光操作卓「バーサステーション」



昇降操作装置（左から照明特電盤、昇降装置盤、吊りマイク装置）

主なスタジオ照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数
第2スタジオ	エリアパトン	センピ型調光器付	13
	バックパトン	—	3
	アッパー・水平パトン	—	3
	500Wスポットライト	AL-0.5KQS-3	5
	アッパー・水平ライト	AL-UHQ-10-2-C	66
第3スタジオ	4灯式蛍光灯調光型フラッドライト	AL-FLD-4	22
	エリアパトン	センピ型調光器付	13
	バックパトン	—	3
	アッパー・水平パトン	—	3
	500Wスポットライト	AL-0.5KQS-3	8
第2スタジオ	アッパー・水平ライト	AL-UHQ-10-2-C	69
	4灯式蛍光灯調光型フラッドライト	AL-FLD-4	30